

令和6年度

# 長生小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎・基本の確実な定着を図り、主体的・対話的に学び合い、表現できる児童の育成  
～学びの質を向上させ、主体的に活動できる児童の育成～

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 岩倉 和代	委員 校長:岡 佳子 教務主任:浮橋 未夏 研修主任:仁木 良江 生徒指導主任:柳本 晃佑	教頭:林 千春
------------------	---	---------

校長

岡 佳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能の定着は一定の成果が見られる。 ●初めての文章を的確に読み取ったり、理由や根拠を述べて分かりやすく伝えたりすることに苦手意識がある。 ●読書の質に個人差があり、語彙の少ない児童が見られる。	・基礎・基本の定着を図る。(単元テストで8割回答できる。) ・様々な文章に親しみ、作者や筆者の意図を的確に読み取ることができる。 ・様々な種類の本に触れ、読書の質を高めることができる。	・フラッシュカードや小テスト、ドリルパークを活用し、繰り返し学習させる。 ・学力向上プリント等で初読の文の読解を増やす。 ・理由や根拠を明確にさせるよう発問を工夫する。 ・条件にあった本や新聞を読む機会を作る。	・教科書に出てくる本の並行読書をすることや教員が指定した本を読むようにするなどして、読書の質を高める。	・並行読書により、興味の広がりや語彙の増加が見られる。長文の物語等を読む児童が増えた。 ・教科書教材では、叙述を基に内容を読み取る力が伸びた。 ・ドリルパークで反復練習させたが、個人差がある。	・基礎的な内容を反復練習させる。 ・並行読書を行い、様々な分野の本に親しむことができるようにする。 ・初読の文の読み取りや教科書教材の類似問題に取り組ませる。 ・長文の視写で、書く速さや長文読解の力を向上させる。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○難型があればそれを活用して表現できる力はある程度身に付いている。 ○タブレット使用に慣れ、学習支援ソフト活用に意欲的に取り組んでいる。 ●与えられた材料から思考判断したり、自分の考えを的確に表現したりすることの苦手な児童が多い。	・難型を使い、自分の考えを書いたり言ったりすることができる。 ・文章や表・グラフを正確に読み、判断するのに必要な材料を的確に選択することができる。 ・タブレットの学習支援ソフトを活用し、自分の考えの表現や自他の比較ができる。	・国語や算数の教科書の難型を使い、自分の意見を書いたり言ったりさせる。 ・表やグラフの読み取りを繰り返し行う。 ・日記等で長文を書くことに慣れさせる。 ・タブレット教材の使用場面を授業中に設定し、学習状況を教員の端末で把握する。 ・子ども鳴潮の視写をし、感想を書かせる。	・社会、学活、総合などで、いろいろなデータの中から必要なデータを選ぶ機会を増やす。 ・複数の表やグラフの中から選んで読み取ることを繰り返し行う。	・算数では自分の考えを説明できることが増えた。国語では、ひな形に沿って意見文や資料を使った説明文等を書く力が伸びた。 ・タブレットの使用に慣れ、一人で学習できるようになった。 ・自分の思いを文で表現する力が伸びた児童と、分かりやすく表現することが苦手な児童が見られる。	・体験したことを文に表す機会を多くつくり、したことだけでなく自分の感想等を詳しく書くよう指導する。 ・モデルを示し、推敲する時間をとる。 ・文章全体の構成や展開を考えて、筋道の通った文章を書くことができるよう指導する。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自学ノートの内容を工夫して取り組む児童がいる。 ○興味関心のあることに意欲的に取り組む。 ●自ら課題を見ついたり、学習・体験から次の課題を見出して取り組んだりすることは不十分な傾向がある。	・課題解決のために自分の考えを持ち、進んで意見を述べたりすることができる。 ・タブレットを使って記録を取り、分かりやすい資料の作成や発表・提示に意欲的に取り組むことができる。	・ペア学習やグループ学習を活用して、自分の意見を話す活動を多くとる。 ・タブレットの機能を活用し、主体的に学習に取り組める機会を増やす。 ・道徳等の授業でなりたい自分(将来の夢)を明確にし、そのためには今どうするべきかを考える機会を増やす。	・タブレットを利用しながらペア学習やグループ学習を活用して、自分の意見を話す機会をつくる。	・ペア学習後に全体で発表することができるようになった。 ・オクリンクで配信し、解き合うことにより、活動への意欲が高まった。 ・工夫のある自学ノートを見せることにより、自主学習への意欲や内容・質の高まりが見られた。	・ペア学習時に指導を行い、自分の意見を言えるようになる。 ・算数や理科でのプログラミングの指導を充実させ、興味のある分野の広がりや学習意欲の向上を図る。

## 令和6年度 学力向上ロードマップ

